

元 経営情報学会会長回顧録

岡本行二
(1998年～1999年会長)

当時の学会の決まりは大学と企業が順繰りに会長が出ることになっているらしかったのでおはちが回って来ました。私の前は東工大から千葉工大に移られた高原康彦先生、私の後は文教大学の真鍋龍太郎先生でした。

経営情報学会は文系の日本経営情報学会と理系の経営情報学会が松田武彦先生（理系の経営情報学会会長だった）の音頭取りで合併し経営情報学会がスタートしたのでした。JASMIN という英語名は日本経営情報学会が使っていた名称だと記憶しております。合併劇は新宿西口の工学院大学の会議室で行われました。

私は古くからのコンピュータシステム屋で経営実務のシステム化が専門でした。仕事上ORや当時盛んに行われた数値計算（なにしろコンピュータにコンパイラはもちろんのことアセンブラも付いていない時代でしたから）に興味を持っていました。松田先生や慶応大学管理工学科の諸先生とのお付き合いが深くなったのは当然の成り行きでした。

1950年代はコンピュータに携わっている人は大学にも会社にも少なく日本中で数えるほどしかいませんでしたから、会議も金太郎飴（同じ顔ぶれ）でした。そういうわけで大学の先生とか企業の実務屋とかの垣根はなくお付き合いができていました。多

分そのようないきさつがあったので経営情報学会の会長職が回ってきたのだと思います。そうでもなければ浅学非才な私が会長をすることは考えられないのです。理事会は新橋のJTBがあるビル（ビルの名称は失念）で毎月行われていたと記憶しております。

松田先生は2000年1月30日に亡くなられ信濃町の千日谷会堂で告別式が行われました。最近では訃報が多いのですが千日谷会堂は唯一松田先生の告別式だったので覚えております。

話は本題のシステムに移りますが、経営情報は生き物ですが、経営自体がそんなに変わっていないので経営情報も変わりようがないというのが私の持論です。しかしコンピュータが世に現れて半世紀以上になり、その間半導体をはじめとする物作り技術の発展は目覚ましく、パソコン時代になり誰でも安直にパソコンを持てるようになってきていますから、一般の人の意識が変わり経営情報システムは様変わりになっているようです。

私の十数年ぶりのJASMIN とのお付き合いで感じていることは、経営情報は企業中心に回るはずですからIT産業以外の企業人をもっと引っ張り込むことを考えたほうがいいと思います。企業に役立つ経営情報学会を目指してください。